



2026年 8月10日  
第19号

# JR東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 梶田 優一

編集 情宣 担当

ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



## イーハトーブ

8月10日号

2026年8月6日、広島に原爆が投下されてから81年が経過した。平和祈念式典の報道を見ながら、以前ヒロシマ平和研修に行つて原爆がもたらした恐怖と悲惨さを学んだことを捉え返し、「核」の恐ろしさについて改めて考えた。原爆が投下されたことにより、平穏な生活、大切な人とのつながり、そして多くの命が奪われただけでなく、放射線により直撃を免れた市民も被ばくして命を削られることになってしまったという事実を忘れてはならない。

しかし、被爆地の願いとは裏腹に小泉防衛大臣は7月17日、ネット番組に出演した際に核戦力増強や持ち込みを認めたフランスやフィンランドを例に挙げ、「日本においても核戦力に関して議論をすべき」といった趣旨の発言をしている。7月24日の大臣記者会見で発言の真意を問われ、「政府としては非核三原則を政策上の方針として堅持していく」と述べる一方で「強い危機感を持つて、あらゆる選択肢を排除せずに議論することが不可欠だ」と強調している。この発言に、被団協は怒っている。私自身も、中国や周辺諸国を刺激する発言で憤りを感じる。高市首相は、核弾頭が搭載された米国の潜水艦が日本に寄港したり、領海にいなければ抑止力が低下するという理屈で非核三原則の見直しを目論んでいるが、そうではなくて外交努力を重ねて戦争を回避する努力をするべきだと私は強く感じる。

一方で、先月24日には米海軍の原子力潜水艦「バーモント」が横須賀基地に寄港し、原子力空母も含めて通算1100回もの寄港回数を記録している。原子力艦船も、私からすれば動く核兵器である。万が一、攻撃を受ければ爆発・炎上だけでは済まない。原爆投下と同じような惨事につながると危惧している。悲劇を繰り返させないためにも、毎月19行動などの参加を通じ核兵器廃絶を求めて声を上げ続けていく。

(M・K)

### イーハトーブとは

「注文の多い料理店」や「雨ニモマケズ」などの著者として有名な宮沢賢治による造語です。故郷の岩手県をモチーフとし、彼の心の中にある理想郷を示す言葉です。

社会に目を向け、新しいものを積極的に取り入れ、農民の生活向上のために最後まで尽力した宮沢賢治の生き方に学びながら、私たちも外に目を向け、私たちが安心して働き暮らせる理想郷を実現していこうという想いを込め、イーハトーブというタイトルで情報発信を行っています。